

**先端計測分析技術・機器開発事業
平成 19 年度事業運営にあたっての改善事項**

1. 競争的研究資金制度改革に沿った制度設計（総合科学技術会議の見解等に対する対応）

- (1) 常勤のプログラムオフィサー（開発総括）について、平成 18 年度からの継続 1 名に加え、平成 19 年度より新たに 1 名委嘱し、非常勤の 4 名と共に事業全体をさらに強力にマネジメント。
- (2) 電子申請について、平成 18 年度に引き続き実施。

2. 課題選考

(1) 応用領域（ものづくり領域）における開発領域の設定と開発課題の公募

本年度より、研究現場のみならず、応用現場（ものづくり現場）での将来の活用が想定される機器に関する領域（応用領域）について、新たに公募を実施。「機器開発プログラム」では応用領域に関して特定領域 2 領域を設定し、「要素技術プログラム」でも課題を公募。また、応用領域の開発課題については、チームリーダーらが開発しようとする機器ないし要素技術の検証・実証を行い、チームリーダーらに対し得られたデータ等のフィードバックを行う「応用ユーザー」を設置。

(2) 外部専門家に対する査読依頼

書類査読において、課題選考に携わる専門家を固定せず、申請課題ごとに適切な専門家が選考に加わる方式を平成 18 年度に引き続き導入し、世界最先端の開発課題をより的確に判断。また、プログラムオフィサー（開発総括）が選考に関与し、事業運営のさらなるマネジメントを実施。

(3) その他

「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」の反映

3. 開発成果としてのより大きな波及効果を生み出す仕組み

本事業の開発課題開始から 3 年あまりが経過し、プロトタイプ機としての成果も徐々に現れつつある。（社）日本分析機器工業会が主催する「分析展」は、3 日間で延べ 20,000 人を動員するアジア最大の計測分析機器関連行事であり、計測分析機器関係のマネージャー・メーカー・ユーザーが一堂に会するため、本事業ならびのその成果をアピールする最適の場である。今回、本事業として「ブース設置によるプロトタイプ機等の展示」および「公開シンポジウムの開催（8 月 30 日）」を企画し詳細について検討を行っているところである。

※「2007 分析展」開催概要

日時：平成 19 年 8 月 29 日（水）～31 日（金） 10:00～17:00

場所：幕張メッセ国際展示場 4・5・6 ホール

先端計測分析技術・機器開発事業

開発領域の通知から開発開始まで

